

自己評価および外部評価結果

2階

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりしたスペースで、その人が望む暮らしを実現したいと誠意と愛情を持って共に生活している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外回りの掃除、花壇の手入れに目を向けながら、地域の方々との日常の挨拶を大切にしている。又、入居者一人ひとりが、所帯主として町内会に入会し、会長さん民生委員さんにはイベントに参加していただくなど交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の生徒さん(2~4人)をチャレンジワークとして受け入れている。(年1回3日間)活動報告で保護者の方のご意見もいただく事ができ活力となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当ホームでの高齢者の生活ぶり、状況の報告などを行っている。又、地域の方々の情報もいただいている。(特に独居の方)今後の取り組みとしては火災、災害時協力体制もお願いして行きたいと思っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新申請時や当ホームでの日常業務の中で積極的に相談し、コミュニケーションを図っている。又、地域研修の際、行政だけでなく、他の事業所ともコミュニケーションを図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない・・・原則はしっかり守っている。玄関施錠については、交通量の多い県道430号線があり、危険を回避する支援が必要である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を設けてはいるが、「ケア」に係わる「ストレス」「職場の人間関係」に係わる「ストレス」など、職員同士の相談により解消している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在2階では成年後見制度の利用に向け、ご家族と検討中の方はいる。パンフレット・小冊子などを読むことにより、認識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に個々の立場に立って取り組んでいる。又、面会時その後のご家族の様子などを伺い、納得、安心していただけるようにゆっくと時間をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じて外部の人には伝えられている。又、言うことをためらう御家族等に意見要望を出してもらえるように配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的には設けていないが、現場の職員の意見を尊重し、入居者の状況や実情を把握するのに活かされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各階の管理者により、職員個々の得手の性質を生かし担当を決め、働く意欲、質の確保につなげているが、今後面談でも対応して行きたいと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会や社会福祉協議会からの情報に基づき、全ての職員が各自の立場、経験に応じた研修に出席できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市GH協会に所属し、研修会、講習会などを利用して意見交換している。又、研修、講習の内容・感じたこと・今後どう生かすか・・・などレポート報告を回覧し、質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際、ゆったりしたペースでご本人、御家族から今までの様子、環境の変化への不安、生活歴、大切にされていた事など出来るだけ多くお話していただけるよう、ご家族にご協力を願い、体験(おやつ、昼食と一緒に食べていただく、フロアで体感していただくなど)を、入居前に2回程度お願いし、職員共々コミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接以外にも密に連絡をし、御家族からの要望・不安などを収集し、その都度当ホームでの様子、普段の生活の風景、それに向けての対処方法などをお話し、ご家族の思いを受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、現在何が必要な支援か・・・?を考え職員全員で速やかに実行している。又、ご本人に納得していただけるよう、徐々に支援の工夫をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日のうちご利用者の方と和やかに談笑しながら過ごす時間を設けている。(食後のティータイムなどの時間)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでの日々の介護の中でご家族が関わること(一緒に買い物など)により、ご家族とご本人の距離を近くに出来ている。家族参加型の行事を開催し、入居者の方と一緒に過ごす時間を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内の支援がほとんどではあるがご利用者によっては近所の方、町内の方の訪問、面会がある。再来し易いよう心がけている。病院受診時、リハビリ通院時の知人との再会を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合えるよう一週間に2～3回のレクリエーションを取り入れ、共通の話題を投げ掛け、和らいだ雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体の病院に入院退居の場合、日々の面会となる。他施設へ移行の場合は、その施設へ情報提供し、又、その後の経緯を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、思いや意向を把握できるよう支援している。意思表示できない入居者の方には御家族とのコミュニケーションを密にし、カンファレンスにもご家族の参加を促している。又、個別にゆっくりお話できるように考慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご利用者の所に出向き、面談を行う。又、当ホームに来居していただき、おやつ、昼食を一緒に食べ、生活歴、趣味、こだわりなどお聞きし、アセスメントを作成してゆく。バックグラウンドの提出もご家族に依頼している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートを使用し、生活面・医療面問わず、心身状態も含め、スタッフにより記録されている。又、変化があればその都度情報交換し、常に現状の把握が行われるようになっている。各担当者を決めることにより、より細やかな気配りを目指している。		
26	(10)	○チームで作る介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向、ご家族の希望を第一に…と考え、計画作成者は専門職の指示を仰ぎ、スタッフ・時にはご本人にも参加していただき、カンファレンスを開催。ご家族には面会時お聞きし、現状に即した介護計画を作成し、それに沿って支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応したスタッフが24時間生活変化シートに記入し、情報を共有している。特に不安時は折れ線にて表現し、次につなげる努力をしている。又、申し送り、カンファレンスの際スタッフ間で意見交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化に伴い、協力病院に連絡し指示を仰ぎ通院介助を行っている。又、入院された場合職員が1日に一回は顔を見て安心していただける様、声かけし、洗濯等も持ち帰り、ご家族の介護の軽減を図っている。又、美容院への予約、送迎、他機関への受診介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【ひな祭り、七夕、夏祭り、敬老会、クリスマス会】などのイベントの際、ご近所のボランティアを招き、演奏を披露していただいている。小中学生の職場体験を通しての交流もある。又、消防署の方にお願ひし、紙芝居、スライドなども見せていただき、避難訓練も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関に受診、往診、ADL向上に向けリハビリ通院介助も施行している。又、他機関(眼科、精神科、歯科、皮膚科)にも自動車にて通院介助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護師1名を配属しており、毎日10時にバイタルチェックを行い、有熱者においては、随時検温、バイタルチェックを追加し、バイタル表のファイルに記録しており、緊急時、協力病院に連絡し指示を仰ぎ、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院で、24時間対応の為、安心して治療や入院も、即対応してもらい、スタッフも信頼している。毎日面会し、状態の把握が可能で、退院時も医師、看護師からの情報により、スムーズに対応できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームが対応可能なこと、対応できないことの内容を入居時に説明している。又、状態変化があるごとにも御家族に説明し、ご家族の意向も大切にしている。又、看取りに関しての考え等を協力病院と共有し、必要が生じた際は主治医、看護師、ケアマネ、御家族と話し合い、書面にて同意をいただく事としている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はないが、急変に対しては迅速に対応。即母体の病院に搬送する。徒歩3分以内、24時間対応。応急手当・初期対応は、看護師が実践している所を見聞して身につけている。又、随時講習会への参加も予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2階にはベランダを1階には中庭を新設して避難路を確保し、災害に備え避難訓練も行っている。近いうちにスプリンクラーが設置される予定である。地域密着推進会議で町内会には協力体制をお願ひし、一人ひとりの利用者の状態を把握し、避難誘導が出来るように備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の立場に立っての声かけに務めている。現場において職員同志が、意識を認識しあいながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との話し合いのもとで、職員が出来るだけ分かりやすい選択肢を用意している。個々の意見を尊重している姿勢を分かっていたかのように務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われてしまい、希望に応じた支援に至らない部分があるが、入居者の思いや希望を常に職員が把握するよう務めている。予定していない日の買い物、散歩、お茶の時間・・・などはより一層喜びがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望により、行きつけの美容院・散髪屋を利用されている。(予約、送迎も行う)美容院の方も入居者の対応をある程度心得ていてくださる。その他の方は2ヶ月に1回美容車を利用している。毎朝温タオルをお届けし、お化粧をされている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化により一緒での食事準備は難しい状態である。食後、トレーをキッチンまで下げてくださる方はいる。唯一楽しみながらの食事は一緒に、同じものを味わいながらの支援ができています。食事のタイミングも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士による献立に沿って食事作りを調理職員が調理している。個々の摂取量、残量チェックなども24時間生活変化シートに記録し、情報共有している。摂取量の不足気味な時は、その方に合わせた飲み物、食べ物で対応している。又、形態も変化をもたせて支援している。又、1ヶ月に一度(月初め)の体重測定値を重視している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後の歯磨き、うがいの励行。うがい時、緑茶使用し、口臭消失を行っている。夜間義歯はポリドントにて消毒、洗浄している。又、医師により口腔内(舌)も診て、薬の処方があるときもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して対応している。小さな声(耳元)で敬語によりトイレでの排泄を促している。失禁、失便の対応にも羞恥心、プライバシーにも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの人が便秘がちの為、内服での調整が多い。便秘が続くと腸閉塞になる人もいる。毎日の排便状態を記録し、職員同士が把握できるようにしている。又、一人ひとりに合った便秘対策は必須で内服・坐薬で対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当ホームが決めた曜日、時間帯に合わせた入浴が現状である。一人ひとりの体調、身体状況、意向をふまえ、順番の配慮、全介助、一部介助、見守り、各種の椅子(浴槽内、外、バスタチェア)など工夫をし、寛いだ気分で入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠であっても、眠剤を服薬することなく、ご本人のリズムを大切に見守っている。夜間は職員が付き添い、声かけし、安心できるようにしている。午睡・入眠も起床も自由。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を直ぐに確認できるよう、用法ファイルを作成し、職員が中止薬や処方箋の変更など把握できるようにしている。又、与薬については、入居者の状態に合わせ、ゼリーにまぜる、粉碎、スプーンで含んでいただくなどし、介助、見守りの下で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	葉書、日記など書くことが日課になっている方には、その日の献立をホワイトボードに書いていただき、フロアに掲示している。又、季節の掲示物にはその季節に合った歌の歌詞を、筆で書いていただき、壁に掲示してレク活動の際活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の献立を見て、入居者の嗜好の合わない献立であれば、近くのスーパーに入居者の方々と共に刺身、ヤクルト、お菓子などを購入に行っている。又、子供さんたちによく葉書を出される方とは郵便局にも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くの郵便局、スーパーなど、買い物に行った時ご本人に支払いを行っていただいている。又、管理できる方にはご自身で管理していただき、見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	近くの郵便局に葉書を買に行き、日に1～2枚ご家族に葉書を書かれている入居者もいる。又、ご家族からも葉書、手紙が届いている。また、携帯をお持ちの方であれば、入居者からの申し出により、電話をかける、取り次ぐなどの介助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには癒し効果も高い植木、花器、食卓、椅子、ソファー、簡易テーブルなどを配置して自由に移動、過ごしていただいている。又、フロアーにはクラシック、民謡、演歌、童謡など音楽を流し、寛いでいただいている。南フロアーはご夫妻の寛ぎのスペースともなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部分をフローリングに変え、フロアーを広げ、椅子、ソファー、食卓を各場所に配置し、入居者の動きに合わせたテーブル・イスの配置にし、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真、思い出の品物など、居室に設置し、ご本人の好みの居室になるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる所に手すりをつけ、浴室にも滑りどめマット、椅子必要に応じて準備。見守り、一部介助にて自立に向けて取り組んでいる。又、自室が分かり易いようにご本人の好みの暖簾を掛けている。		